

小児外科・移植外科

小児外科・移植外科を選択科で研修する場合の初期研修プログラム

研修プログラムの概要・特徴

概要

外科基本研修の上に、外科のサブスペシャリティーとして、新生児外科を含めた小児外科と、成人ならびに小児双方の肝移植を中心とした移植外科の基礎を習得する。

特徴

成人・小児の疾患が混在する特殊な科において、小児外科（内視鏡手術の嚆矢として知られる）と移植外科（通算肝移植 500 例超で日本の主要施設のひとつ）という高度に専門化した領域の周術期管理と長期フォローアップを学ぶことができる。指導陣はそれぞれ新生児を含む小児の外科、成人の肝胆膵外科に根ざした生体肝移植に加え、欧米における脳死下腹部臓器移植で豊富な執刀経験を有している。小児外科と移植外科それぞれをバランスよく学ぶことができるように配慮している。

研修の目標

小児外科、移植外科患者の受け持ち医として、各手術適応疾患の認識、術前評価、手術、短期長期の術後管理の経験を積み、専門診療を通して外科基本診療能力の一層の向上を図る。

【 経験目標 】

（1～3ヶ月選択の場合）

基本手技

- 小児の採血が介助下でできる
- 年長児での輸液ルート確保ができる
- ドップラー機能付き超音波診断装置の取り扱いができる

外科手技

- 筋膜縫合を実施できる。
- 腹腔ドレーン挿入ができる

専門的知識

- 生体肝移植の適応を理解できる
- 肝臓の基本的解剖が手術野で理解できる
- 小児輸液管理ができる

（5～6ヶ月選択の場合）

基本手技

- 小児の採血、輸液ルート確保が独力でできる
- 肝針生検の介助ができる
- 各年齢層における、経静脈、経腸栄養管理ができる

外科手技

- 小児単径ヘルニアの第一助手ができる
- 開腹操作ができる
- 開腹下胆嚢摘出ができる

専門的知識

- 移植肝血流の超音波評価が可能となる
- 基本的免疫抑制剤の投与管理ができる

（8ヶ月選択の場合）

基本手技

- 肝針生検ができる
- 成人中心静脈ルートの確保ができる

外科手技

- 閉腹操作ができる
- 生体肝移植レシピエント・ドナー手術の助手ができる

年長児単径ヘルニアの術者ができる
専門的知識
新生児外科の術前術後管理ができる
生体肝移植患者の退院指導ができる
肝移植バックテーブルでの肝保存操作ができる

研修の方略（スケジュール）

診療科長回診 : 月曜午前
病棟カンファレンス : 木曜午後
手術 肝移植 : 火曜
その他 : 随時
抄読会 : 木曜あるいは金曜朝
デイリーミーティング : 平日毎夕

研修体制

日々の指導は上級の主治医ないしは指導責任者が責任を持って行い、手術場では術者が、回診、カンファレンスでは診療科長が指導するが、基本的にはチームの一員として処遇し、教室員全員が協力して指導にあたる。

研修実施責任者

小児外科・移植外科長：日比泰造

研修指導責任者（指導医）

小児外科・移植外科：山本栄和